

ブック村だより

本学コレクション紹介 (17)

マルサス『人口論』第6版, 1826年	森岡 邦泰 (1)
心に残る1冊の本	大橋 正彦 (2)
ぶっくす・なう	(4)
『三匹のおっさん』	谷岡 一郎
『あら皮—欲望の哲学』	塩田 眞典
『この世でいちばん大事な「カネ」の話』	佐和 良作
『愛と美の法則』	下山 晃
新学生スタッフ登場! Part II	(6)
講義に役立つ資料の見つけ方	(7)
インフォメーション・開館案内	(8)



本学コレクション紹介 (17) マルサス『人口論』第6版, 1826年

マルサスは『人口論』で以て言論界に名を馳せた後、東インド・カレッジの歴史・経済学の教授となった。マルサスはかくして欧州で最初の経済学教授となった。講義でマルサスはアダム・スミスの『国富論』を教科書に使い、学生には『国富論』をそれぞれもたせて、各見開きにマルサスが講義で話す注釈をノートするための白紙を挟み込ませて再製本させた。そうした『国富論』が現在一冊残っているが(インヴェラリティ手稿と称される)、そこでは学生がマルサスを「ポップ」(人口論者マルサスPopulation Malthusの略)とあだ

名で呼んで、「ポップは……と考えている」等々という具合に講義のノートを取っているのが見られる。またマルサスの横顔の落書きも残している。

マルサスは経済学に転じた後も、終生『人口論』の改訂を続け、その最後の版が第6版である。1823年にはブリタニカ百科事典に「人口」の項目を寄稿している。学生のノートからも分かるように、マルサスは最後まで人口論者として記憶されたのである。

(経済学部 准教授 森岡 邦泰)

『学校を激変させるあいさつ教育』

図書館より本書の紹介を受けたのは2月のことである。丁度、本学で「あいさつキャンペーン」に取り組む者として、アピールしたことは当然であったかもしれない。

昨今、「あいさつ」の大切さが産業界で企業教育などの分野で取り上げられてきた著作や記事（たとえば『日経ベンチャー・2007年7月号』の「あいさつ特集」など）は少なくない。しかし、学校、とくに大学という舞台での著作は皆無に近い。以下では、起床時の家庭内とともに学校での「あいさつ」が高等学校を変えたという実例を中心に纏められた本書の概要を紹介したい。

本書は、日本経済新聞社出身で社会教育分野で講演・執筆活動を営む著者が、たまたま知り合った「あいさつ」を柱とする基本方針で所属高等学校を次々と変え、多くの人に感動を与えてきたある校長先生の題材を紹介した単行本である。

3つの熊本県立高等学校における実例から紹介する。

まず菊池高等学校では、赴任後の重点項目として委員会を設置して次の5つに取り組んだ。すなわち、それは「あいさつ」、「体力」、「感性」、「集中」および「思考」である。このうち最重点項目として「あいさつ」を選び、これに50%のウエートを置いて取り組んだ。ここでは定期的に学級ごとの挨拶実施調査を実施するとともに、関係者全員にその自覚を促すために生徒や教員はもとより、父兄にも情報公開を行った。その成果は見る見るうちに出て、最初のころの平均挨拶率40%が、1年で90%台になったそうである。

産業界に多くの代表的リーダーを送ってきた伝統ある熊本商業高等学校では、過去の栄光を取り

戻すため、赴任後、「あいさつ」、「目標」および「感性」の3項目における実践力の強化策として取り組んだ。挨拶については、「あいさつ定着委員会」を設置し、こまめに実践状況調査を実施した。その成果としては、目標に関して全国商業高等学校協会主催各種1級検定合格者数は平成13年度の47名（全国11位）に対して平成15年度には92名（全国1位を奪回）となり、一方の挨拶率も大幅に向上し、地域の人々からは当該高等学校については「生徒のあいさつが良い」、「学校が明るい」という定評を得ている。

また元々文武両道に優れた女子進学校（現在は男女共学）の八代高等学校では、学業レベルをさらに引き上げるため、赴任後、教育目標として「Cool Head but Warm Heart」を掲げ、一つ目の「Cool Head」の具体的内容としては「目標」および「思考」を、二つ目の「Warm Heart」の内容としては「あいさつ」および「感謝」を掲げた。これらの実施後2年を経過すると、まず「目標」については、大学センター入試の受験率が70%台から90%台に向上し、就職希望者の公務員合格数も過去最高を記録した。「感謝」については、母の日・父の日・敬老の日・勤労感謝の日の年4回各家庭内で感謝の意を表すように指導し、調査の結果、その実施率82.8%の母の日をはじめ、それぞれ大幅に上昇した。そして「あいさつ」については、たとえば起床時の親兄弟など家庭内でのあいさつ調査では、全学年、全クラスとも90%台の実施率を維持し、とくに3年生では97%台を維持し、最終的には99%台になったという。見事というほかない。例外ではなく、地域の人々から当校の生徒は「マナーが良い」、「明るい」という評価を得た。

結論として、本書に題材を提供された校長先生の生徒指導のコツは、二宮尊徳の言う「機会」をうまく活用することであったという（名著『二宮尊徳』中央公論社、232頁）。挨拶指導を例にとると、現在、高校生で挨拶の習慣を身につけている割合は、良くて30～40%程度と言われる。彼は、調査結果を確認した上で、最初の1学期で挨拶実践の指導を徹底する。すると1学期の終了時には約60%が挨拶するようになる。つまり、秤の釣り合いが挨拶の「不実践」から「実践」へと傾く。そうなれば、あとは自然に挨拶率がさらに向上し、3学期の終わりには大抵90%台の実施率となり、学校全体が挨拶人間の集団になる。このように生徒のほぼ90%が挨拶できるようになると、学校全体が「善」の集団に変容し、他のすべての生徒指導が非常にやりやすくなるという。そのためにも、まず態度変容が最も容易な挨拶の実践に尽力することが鍵だと。尊徳が「村」と称した単位は、学校では「クラス」、家庭では「家族」、職場では「一部門」、町では「一区画」に喩えられる。まずそこで徹底的な挨拶が行われると、その輪は次第に全体に及ぶ。学校では、校長や担任教官が率先して挨拶を励行し、長期的に根気よく「あいさつ運動」を続けていけば、生徒も挨拶人間の方向に傾いていくと結んでいる。

本学で建学の理念に基づいて平成18年度に立ち上げられた「思いやりと礼節委員会」（当初部会）の一員として、本書は心に訴えるものがあつた。これは本学で「あいさつキャンペーン」を開始されたあとで、過去に実際に訪問して話を聞かれた知人から耳にしたものであるが、大学という場であっても同じで、かつて玉川大学におられた野田氏が同じ学長として宮城県立大学に赴任され、そこで初めて「あいさつ運動」をされたそうです。

その知人に対して、ほぼすべての学生が挨拶をしてくれたそうです。そしてその後、因果関係は定かではないが、偏差値の面でも近隣の東北大学と同レベルになったという。本学でも、教員、職員、かつ学生が一体となって当該キャンペーンを継続的に実施し、大きな成果が上がることを期待したい。

（総合経営学部 教授 大橋 正彦）



田中真澄 著

『学校を激変させるあいさつ教育 一校長のリーダーシップと説得力はこうして創る』

ぱるす出版、2008年9月

※図書館2階「ブック村だより」コーナーにあります。

『日経ベンチャー・2007年7月号』「あいさつ特集」

『第2特集 あいさつ力で会社を変える』

- ◆日本で唯一 これが噂の“あいさつ講演”の中身
「あいさつが増えれば業績が上がる」
- ◆経営心理学の専門家が緊急提言
「あいさつのない会社が不祥事を起こす」
- ◆あいさつで業績アップ！
渡辺住研に学ぶ「文句ゼロ」「コストゼロ」のあいさつ導入マニュアル
- ◆社長は「あいさつの達人」たれ〈心構え編〉
一流が集う「あいさつの会」トップのあいさつは「形」より「心」
- ◆社長はあいさつの達人たれ〈振る舞い編〉
トップが守るべきあいさつ3つのポイント

ご利用は図書館カウンターまで。

『三匹のおっさん』

(文藝春秋, 2009.3)
有川 浩 著

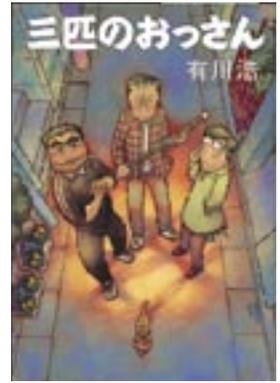
還暦をむかえた同じ町に住む仲良し三人組。その3人は与えられた余分な時間でボランティアの自警団活動を始めます。ひとりは剣道の、もうひとりは柔道の達人ですが、3人めは工学系の頭脳を持つ少々危ないオッサンです。いわゆるバッタバタと切り倒す活劇ではありませんが、人情喩的な設定で、ほのほのとした良い味の小説です。

話は短編(連作)6編あり、いわゆるミステリー的な謎解きはありません。3人の主人公の家族を巻き込んだドタバタ・コメディと言った方が近いでしょう。3人の主人公には、それぞれに家族がいます。脇役といいますが、準主役の高校生の孫がいい味を出していて、この孫の成長の物語としても、恋物語としても読むことができるはずで

す。作者も楽しそうに書いている(と思う)ので、近い将来、続編が出るものと信じます。そのうちテレビ・ドラマ化してもおもしろいかも。

有川浩は兵庫県南部在住の女性作家で、『図書館戦争』シリーズで大ブレイクしました。まだ読んだことのない人は、『図書館戦争』から読んでみて下さい。おもしろさ爆発のシリーズです。それより、在阪の学生さんにとっては、この作者の『阪急電車』が、もっと気に入るかもしれません。阪急今津線(西宮北口を中心に南北に走る、それほど長さのない線)の各駅をテーマに短編を積み上げつつ、別の大きな流れを創り出すという手法のグレモノです。

(学長 谷岡 一郎)



『あら皮—欲望の哲学』

(藤原書店, 2000.3)
バルザック 著, 小倉 孝誠 訳

細密描写の執拗さに音を上げることの多いバルザックの小説群だが、本作に関していえばかなり読みやすい。ストーリーはシンプルなもの。失意の青年が骨董屋で謎の老人からあら皮を譲り受ける。その皮に願いをかけると必ず叶うものの、その度皮は縮む。縮んだ皮が青年に残された生命という次第。欲望を充たせば生命力が枯渇するというトレードオフ関係の中で彼は抗いもがきその果てに、といった風に話は展開する。

これはゲーテの『ファウスト』やホフマンの短編小説などでおなじみの主題「悪魔との取引」の一変種といえよう。その主題からいって幻想小説風にならざるをえないのだが、そこはバルザックのこと、自分が生きた時代(19世紀前半)と社

会(パリ)を細密描写でリアルに再構築する。その背後に当時のパリのオペラハウスやサロン、カジノで享樂的生活の果てに命を散らしていく人達の生き様が見て取れる。しかも主人公が罹るのは肺病なのだ。

この小説の魅力は実は次のような危ういシーンにある。青年がある女性の寝室に忍び込み私生活を覗く。知らずに女はあるオペラのアリアを歌いだすではないか。それは当時のヒットソングだったのであろう。細密描写の中に当時の社会情報が込められている。その続きもお話したいのだが、どうやら本作はお子様向きではなさそうだ。それにこの物語はものすごい終わり方をするところから。

(経済学部 教授 塩田 眞典)



『この世でいちばん大事な「カネ」の話』

(理論社, 2008.12)
西原 理恵子 著

著者は高知の貧しい家庭で育った。親は生活苦から殺気立ち、子供は不良になるしかなく、高校を退学になるような荒んだ生活をしてきた。しかし、その後一念発起して大検に合格し、東京の美大に進んだ。

子供のころから、自らの境遇だけでなく、地元の子供の過酷な状況をいやというほど見てきた著者は「貧乏は病気だ。それもどうあがいても治らない不治の病だ」と考えていた。美大入学後、なんとしてでも貧乏という不治の病から脱するため、東京で絵を描いて食べていくことを一番大切な目標に見据えた。「肝心なのは、トップと自分の順位を比べて卑屈になることじゃない。最下位の私の絵でも、使ってくれるところを探さなくっちゃ。最下位の人間には最下位の戦い方がある！」

と決意をした。

来る日も来る日も絵を描いて、描いて、描き続けた。そして、自分の絵を使ってくれる出版社を探すためにすさまじい営業努力も続けた。目標を「絵の仕事で月30万円」とした。目標を達成したのは、大学3年生のときであった。

その後は売れっ子の漫画家となるが、その間麻雀にはまって大金を失うとか、FX（外国為替証拠金取引）で地獄をみるといった経験もした。著者のたどり着いた結論は、「働くことも、お金も、みんな家族の幸せのためにある。お金には家族を、嵐から守ってあげる力がある」であった。

文章は平易で読みやすい。これからの人生に多少とも参考になると思われるので、ぜひ一読を。

(経済学部 教授 佐和 良作)



『愛と美の法則』

(パルコ出版, 2009.4)
美輪 明宏 著

偏差値の高い人や律儀でマジメな人が必ずしも内容の「濃い」本や「おもしろい」本を書くとは限らない。何かと話し上手な人が「おもしろい」本を書くとも限らない。「ユニーク」といわれる人が別にユニークでも何でもないお手軽なお気楽な本を出していることも、案外少なくはない。逆に、一緒に居て話題に困るような退屈な感じの口ベタな学者先生が意外にも、すこぶる読み応えのある良書をモノにしていたりもするし、会えば寡黙な、一種「正体不明」の朴訥（ぼくとつ）なおやじさんが「う～ん、なるほど！」と唸ってしまうような、密度十分の「すごい本」をさり気なく出版していたりもする。元々「カリスマ」だとか「ユニーク」だとか「天才」といった

形容は、しばしば安売りされることが多い表現であるため、そうした言葉を用いる場合には何かと用心が必要と思えるが、著者の美輪さんという人物は、まことにユニークな生き様の持ち主、書く本も頗るユニークな内容を含んでいると言って間違いない。

本書はタレント本、本来の意味でのtalent（特異な才能、素質、腕前）を存分に見せつけてくれる超刺激的な作品である。説教調に嫌味は無く、人とのつながり方や歴史との関わり方をしっかりと考えさせてくれる話題も多い。本書と関連してDVDも発売されているので、読む楽しみは二倍、三倍。第五章は圧巻、必読。

(総合経営学部 教授 下山 晃)



● ● ● 新学生スタッフ登場！ Part II ● ● ●

今回は前号に引き続き、新図書館スタッフ
杉山祐脩さん（経営学科2年）に、図書館に
関しているいろいろ答えて頂きました。

初めて図書館に来た時の印象は？

- 建物の規模と館内の綺麗さに驚きました。

スタッフに登録頂いたきっかけは？

- 何か大学内で役に立てる事があればと思いい
志願しました。

図書館では5月・11月末頃に「選書ツアー」を
予定していますが、それ以外でスタッフとして
やってみたい事はありますか？

- 今のところ無いですが、やれることなら何
でも協力します。

月にどの位の割合で本を読みますか？

- その月によって変動しますが、月平均10冊
くらいです。

お気に入りの分野は？

- 経営関係や、自己啓発等の分野をよく読み
ます。

ケータイ小説は読みますか？

- 興味、関心が全く無いです。

書店には行きますか？行く場合は、どの位の頻
度で行きますか？

- だいたい週に1度です。オンラインで本を
購入するのであまり行きません。

図書館はどの位の頻度で利用していますか？

- 1度にまとめて本を借りるので、月4～5
回くらいです。

雑誌はどの位の頻度で読みますか？

- 雑誌は読んだことがないです。

視聴覚資料はどの位の頻度で観ますか？

- まったく利用しませんが、視聴覚資料の
「十二人の怒れる男」は見てみたいと思いい
ます。

新聞はどの位の頻度で読みますか？

- 読む新聞は日経のみで、月4～5回程度で
す。

資料の並び方はわかりやすいですか？

- わかりやすく、探しやすいです。

検索用パソコンは、どの位の頻度で利用しま
すか？リクエストしたい機能はありますか？

- 本を探すときは毎回使用します。
- 関連本の表示等があればより多くの本に目
がいくと思います。
例（関連本）「この本を借りた人は、他に
この様な本も借りています」と云うような
機能です。

お友達に読書が好きな方はいますか？
いれば何人位？

- 2～3人くらいです。あまり本好きの方を
見かけないので。

館内の掲示は見ますか？

- ちょくちょく見ます。興味を引くような掲
示があるので結構気にします。

図書館でコンスタントに入手したい情報はあり
ますか？

- 特に無いです。

施設面（空調、照明など）や設備面（机、椅
子、パソコンなど）で困ったことはありま
すか？

- 無いです。

図書館にいる時に困ったことはありますか？
あれば、どんな事で困りましたか？

- 特にないです。

最後に、全体的な図書館に関する印象をお願
いします。

- 内装も綺麗で、利用しやすく調べ物をする
には重宝しています。

杉山さんは広報の学生スタッフとし
ても活躍され、大変充実した学生生活
を送っています。

今回の原稿依頼の際、3種類の案（ア
ンケート、書評、図書館体験談）をお
伝えしましたところ、すべてについて
真摯に取り組んで頂き、原稿を用意し
て下さいました。これからのご活躍を
期待します！

講義に役立つ資料の見つけ方

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。そろそろ新しい環境にも慣れつつ、学生生活を楽しんでおられるのではないのでしょうか。一方で、高校との違いにとまどっておられる方もいらっしゃるかもしれませんね。

大学の授業では、講義内容を理解することはもちろん、学んだ内容や、先生から与えられた課題をもとに、自分でテーマを見つけて探究していくことが重要となってきます。

今回は皆さんの調査に役立つ資料を探す際のヒントをご紹介します。

とりあえず「講義要綱(シラバス)」を読む！

図書館ホームページで公開されている講義要綱には、講義予定やテキスト・参考文献などが詳しく掲載されています。各担当の先生方が、講義や成績評価の際、どのような点を重視されているかを理解するためにも、是非チェックしましょう。

「指定図書コーナー」を活用しよう

図書館では、毎年先生方に、講義に役立つ推薦図書をリストアップして頂き、2階「指定図書コーナー」に配架しています。教員名ごとに並んでいますので、講義に役立つ資料をまとめて把握することができます。コーナー図書は貸出不可ですが、同じ本を極力購入して貸出できるコーナーに配架しています。また、講義要綱に掲載されている「参考文献」を購入しています。網羅的に内容を確認したい方は蔵書検索してみましょう。

図書館に無い資料がもしあれば、リクエストもできます。リクエストはカウンターで受け付けています。

※「指定図書リスト」は、HP上で閲覧できます。

先生の「研究内容」を調べよう

先生ご自身の研究内容は、独立行政法人 科学技術振興機構 (JST) が提供するデータベース、「研究開発支援総合ディレクトリ (ReaD)」で検索することができます。このサイトでは、国内の

研究機関情報、研究者情報、研究課題情報、研究資源情報を調べることができます。

一つ一つ、早めに解決していこう！

講義が進むにつれ、聞きなれない言葉に接する機会が多くなってきます。疑問を残したままではステップアップが難しくなってきますので、なるべく早く、できればその日のうちに解決しておきましょう。

専門用語などは、その気になればパソコンや携帯からの検索で一瞬のうちに「答え」が出てきますが、数ある「答え」のなか、信頼できる情報源を選択することが大切です。

図書館には用語事典やデータベースなど、専門機関が発行した調査ツールが、媒体を問わず揃っています。図書館ホームページにアクセスすれば、学内外を問わず、キーワード検索ができます。

まずは自力で挑戦し、調べ方がわからない時は図書館員に尋ねてみて下さい。

図書館入口付近で配布されている各種「調べ方案内」も活用してみてください。

「コツ」をつがんで効率よく。

講義中に与えられた課題についてレポートを作成する際、なんとなく把握できていることでも、いざ文章にするととなると戸惑う場合もあるかもしれません。

レポートや論文を書く時には、一定の「作法」に従うこととなります。図書館にはその「作法」について、わかりやすく解説している図書が数多く所蔵されています。「レポート 書き方」「論文作法」といったキーワードで検索してみましょう。また、館内で、レポート・論文の書き方に関する図書リストも配布しています。

どうしても考えがまとまらない場合、誰かに話すことでヒントをつかめる事も多々あります。

そんな時はお気軽に、カウンターへ声をかけて下さい。

図書館インフォメーション

◆マナー関連図書の特設しました

本学建学の理念「思いやりと礼節」に基づいた「マナー・キャンペーン」の一環として、マナー関連図書45冊を入口付近に特設展示しました。期間中、たくさんの利用がありました。

◆コインロッカーを設置しました

図書館利用時の携帯品を保管するため、95人分のコインロッカーを設置しました。ご利用の際は掲示されている利用上の注意をよくご確認ください。

◆2008年度「ベストリーダー」発表！

第1位 村上もとか著『龍：Ron』（小学館，1991.8-2006.7）

第2位 アンソニー・ロビンズ著『一瞬で自分を変える法』（三笠書房，2006.11）

第3位 ツルゲーネフ『はつ恋』改版（新潮文庫，1987.1）

◆平成20年度下半期に寄贈された本学教員著書は下記の通りです。（50音順 敬称略）

※配架場所は「本学教員著書コーナー」です。貸出もできます。

【湖中 齊】『都市型産業集積の新展開』—東京：御茶の水書房，2009.2.

【下山 晃】『世界商品と子供の奴隷』—京都：ミネルヴァ書房，2009.3.

【申 英子】『闇から光へ：同化政策と闘った指紋捺捺拒否裁判』—東京：社会評論社，2007.1.

【高橋 哲雄】『都市は「博物館」』—東京：岩波書店，2008.9.

【滝沢 秀樹】『朝鮮民族の近代国家形成史序説』—東京：御茶の水書房，2008.11.

【中津 孝司】『米ドル没落：オバマ新大統領は救世主になれるのか？』—東京：創成社，2008.11.

【古沢 昌之】『グローバル人的資源管理論』—東京：白桃書房，2008.8.

【前田 和彦】『Mr.夢ウ.2：「夢」という名の道しるべ』—大阪：燃焼社，2008.5.

『Mr.夢ウ.3：「夢幽界」の絆』—大阪：燃焼社，2008.6.

開館案内

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23/ 30	24/ 31	25	26	27	28	29

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

●は休館日です。（開館時間：月～土 9：00～20：00）

上記以外にも臨時休館日を設定場合があります。

開館日程および時間の変更されることがあります。

詳細は学内掲示・モニター・ホームページ等でお知らせ致します。

大阪商業大学図書館報「ブック村だより」第34号 平成21年5月31日 発行 大阪商業大学図書館
〒577-8505 東大阪市御厨栄町4-1-10 電話 (06) 6781-5280 FAX (06) 6781-0089
e-mail : lib@oucow.daishodai.ac.jp ホームページアドレス : <http://www.lib.daishodai.ac.jp>

ISSN 1346-8928